

## 要約

本研究は、研究1では、大学適応感を「承認・満足高群」「承認・満足低群」「被侵害・不適応高群」「被侵害・不適応低群」に分け、「承認・満足」の各群と「被侵害・不適応」の各群における比較から、対人ストレスコーピングとの関連性を検討した。また研究2では、大学生活の諸領域（学業、友人、先生、先輩・後輩、恋人、家族、学内活動、学外活動、趣味、その他）における重要度認知の観点で、研究1と同様に各群の比較から関連性を検討した。

対人ストレスコーピングについては、因子分析の結果から解決模索コーピング・解決先送りコーピング・解決実践コーピングが得られた。コーピング得点の差については、男女で大きな違いが見られる結果となった。承認・満足高群と低群、被侵害・不適応高群と低群のそれぞれについて、3つのコーピング得点の差を検討した。結果、女性の場合、解決模索コーピングは承認・満足高群の方が低群よりも有意に得点が高いことが確認された。また解決先送りコーピングと解決実践コーピングについては、承認・満足高群の方が低群よりも、そして被侵害・不適応低群の方が高群よりも有意に得点が高いことが示された。よって、女性は大学適応感の高い人は低い人よりもこれら3つのコーピングを使用していることが明らかとなった。一方男性は、それぞれの群について全てのコーピング得点に有意差は見られなかった。これから、男性の大学適応感には対人ストレスコーピングが関連しないことが認められた。

大学生活の諸領域の重要度認知については、男性は「友人」「先生」「先輩・後輩」「学内活動」が大学適応感と関連することが確認された。また女性は「学業」「友人」「先輩・後輩」「学内活動」が大学適応感と関連することが認められた。